

平成 26 年度事業報告

1. 会員の入会状況

平成 26 年度における会員数は、個人会員は 605 名（59 名増）、団体会員は 49 団体（19 団体増）である。

2. 会議等の開催

(1) 平成 26 年度定時総会

期 日：平成 26 年 6 月 9 日（月）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：86 名（委任状提出者 112 名）

概 要：第 1 部「総会議事」

長岡会長の開会挨拶の後、栗原企画運営副委員長を議長に選任した。最初に、議事録署名人の選任が行われ、会場より石川忠男氏（（公財）日本下水道新技術機構理事長、篠本勝氏（（株）日本水道新聞社長）を推薦する意見があり、異議なく選任された。

次に、議案の審議が行われ、第 1 号議案「平成 25 年度事業報告及び収支決算」及び第 2 号議案「平成 26 年度事業計画（案）及び収支予算（案）」について、「平成 25 年度事業報告」及び「平成 26 年度事業計画（案）」を加藤企画運営委員長より、「平成 25 年度収支決算」及び「平成 26 年度収支予算（案）」を田雑企画運営委員より説明した。

また、平成 25 年度収支決算について、亀田監事より監査報告が行われ、全会一致で可決した。

第 3 号議案「役員任期満了による改選に関する件」について、田雑企画運営委員より説明があり、現在の役員を再任する案が全会一致で可決した。

その他、（株）日水コン服部貴彦氏より下水道を未来につなげる会平成 26 年度活動紹介の説明が行われ、その後閉会した。

第 2 部「記念講演」

ジャーナリストの富坂聰氏に「日本人の知らない中国の現実」をご講演いただいた。

第 3 部「意見交換会」

前田副会長の開会挨拶、松木副会長の乾杯の発声により意見交換会を開会し、亀田監事の中締めにより終了した。

(2) 理事会

期 日：平成26年6月9日（月）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：長岡会長、前田副会長、松木副会長、亀田監事、小林アドバイザー、加藤委員長、栗原副委員長、荒井、金城、田雑、藤原、堀井、松川の各委員、事務局石川日本下水道協会常務理事

概 要：平成26年度定時総会に付議する第1号議案「平成25年度事業報告及び収支決算」、第2号議案「平成26年度事業計画(案)及び収支予算(案)」、第3号議案「役員任期満了による改選に関する件」について審議し、全員異議なくこれを承認した。

(3) 企画運営委員会

計10回の企画運営委員会を開催した。

① 第22回企画運営委員会

期 日：平成26年4月14日（火）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：加藤委員長ほか委員10名、特別出席1名

議 題：平成26年度企画運営委員会委員について、第2回下水道女性職員によるワークショップについて、平成26年度定時総会について、等

② 第23回企画運営委員会

期 日：平成26年5月9日（金）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：加藤委員長ほか委員10名、特別出席2名

議 題：日本科学未来館主催イベントについて、「第2回下水道女性職員によるワークショップ」について、第2回GK P広報大賞について、等

③ 第24回企画運営委員会

期 日：平成26年6月26日（木）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：加藤委員長ほか委員8名

議 題：平成26年度の活動について、第2回GK P広報大賞について、下水道展スイスイ下水道研究所について、G Jリンク第2回ワークショップについて、等

- ④ 第25回企画運営委員会
期 日：平成26年8月6日（水）
場 所：（公社）日本下水道協会会議室
出席者：加藤委員長ほか委員12名、特別出席5名
議 題：江戸まち通信について、下水道展’14大阪スイスイ下水道研究所について、マンホール・エンジョイ・プロモーション（マンホールカード）について、等
- ⑤ 第26回企画運営委員会
期 日：平成26年9月2日（水）
場 所：（公社）日本下水道協会会議室
出席者：加藤委員長ほか委員11名
議 題：日本科学未来館企画展「トイレ？行っとイレ！」について、「第38回水の週間 水の展示会」について、キッチン・バスショールーム見学会について、等
- ⑥ 第27回企画運営委員会
期 日：平成26年10月7日（火）
場 所：（公社）日本下水道協会会議室
出席者：加藤委員長ほか委員7名、特別出席2名
議 題：未来会学生向け処理場見学ツアーについて、G Jリンク「カメラ講座」について、P e n +第2弾について、エコプロダクツ2014について、等
- ⑦ 第28回企画運営委員会
期 日：平成26年11月6日（火）
場 所：（公社）日本下水道協会会議室
出席者：加藤委員長ほか委員12名、特別出席1名
議 題：未来会の活動について、G K P特別フォーラムについて、G Jリンク「カメラ講座」について、「P Rアワードグランプリ」への応募について、等
- ⑧ 第29回企画運営委員会
期 日：平成26年12月22日（月）
場 所：（公社）日本下水道協会会議室
出席者：加藤委員長ほか委員9名、特別出席3名
議 題：G Jリンクカメラ講座について、未来会の活動について、エコプロダクツ2014について、特別フォーラムについて、マンホールサミット2015について、等

⑨ 第30回企画運営委員会

期 日：平成27年1月28日（月）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：加藤委員長ほか委員8名、特別出席1名

議 題：エコプロダクツ展2014の報告について、第43回多摩川
流域セミナーについて、マンホールサミット2015について、等

⑩ 第31回企画運営委員会

期 日：平成27年3月24日（月）

場 所：（公社）日本下水道協会会議室

出席者：阿部委員ほか委員8名

議 題：マンホールサミット2015について、マンホール・エンジ
ョイ・プロモーションについて、うきうき！！TOKYO
アドベンチャーについて、等

3. 活動概要

下記の3つの活動スローガンを立てて事業展開を図った。

- ・「東京中心」から「全国」へ
- ・対象・層の拡大
- ・目玉プロジェクトの育成

また、平成25年度の活動の改善と一層の推進を図ることとし、下記の活動を行った。

I. 発掘・深堀・露出

1. 平成26年度「GKP広報大賞」の選定・表彰

下水道界で展開されている広報活動のうち、他業界への効果的な訴求など、下水道インフラの価値を高めるうえで優れていると思われる広報活動事例を広く発掘、表彰し、下水道界に広く普及させていくことを目的として、前年度に引き続き「GKP広報大賞」を開催した。

「GKP広報大賞」は、グランプリ、準グランプリ、部門賞（(1)報道部門（①テレビ報道部門、②新聞報道部門、③雑誌等報道部門）、(2)広報部門（①行政広報部門、②企業・団体等部門）、(3)広告部門、(4)電子媒体部門）により構成され、報道部門3件（①テレビ報道部門1件、②新聞報道部門1件、③雑誌等報道部門1件）、(2)広報部門14件（①行政広報部門9件、②企業・団体等部門5件）、(3)広告部門1件、(4)電子媒体部門1件、の合計19件の

応募があった。

選考は、審査委員会に先駆けて会員投票（個人会員 1 票、団体会員 3 票）を実施し、さらに 6 月 27 日に審査委員会を開催し、各賞を決定した。なお、表彰式は 7 月 24 日に、下水道展'14 大阪のスイスイ下水道研究所ステージで実施した。

【グランプリ】

- ・史上初！書店で販売した一冊丸ごと下水道特集の雑誌 Pen+「下水道のチカラ」（(株) 阪急コミュニケーションズ）

【準グランプリ】

- ・下水道 PR ポスター（京都市上下水道局）

【部門賞】

◇報道部門・テレビ報道部門賞

- ・該当なし

◇報道部門・新聞報道部門賞

- ・該当なし

◇報道部門・雑誌等報道部門

- ・該当なし

◇広報部門・行政広報部門賞

- ・「すいちゃん」を活用した双方向コミュニケーション広報（堺市上下水道局総務課）
- ・「おしごと体験施設」 東京都虹の下水道館（東京都下水道局）

◇広報部門・企業団体等広報部門賞

- ・マンホール蓋の総合サイト『ひらけ！マンホール』開設（日之出水道機器（株））

◇広告部門賞

- ・全国紙への広告出稿を通して下水インフラの重要性を発信（メタウォーター（株））

◇電子媒体部門賞

- ・マンホールマップ（じゅげむ）

【特別賞】

◇審査委員特別賞

- ・『南蒲生お助け隊』見参！（仙台リバーズネット・梅田川）

◇会員投票特別賞

- ・下水処理場で再生可能エネルギーを利用（長崎県大村市下水道施設課）

平成 27 年度「G K P 広報大賞」については、付属資料の提出を認めるなど実施要領を一部修正したうえで募集（4 月末締切）を行った。

2. メールマガジンの発信
計19回発行した。(平成26年4月17日、5月20日、5月27日、6月23日、7月3日、7月16日、9月19日、10月10日、10月20日、11月7日、11月12日、12月17日(2回)、12月24日、平成27年2月4日、2月9日、2月10日、3月9日、3月18日)
3. 朝日新聞の広告掲載への制作協力
平成26年9月10日号に下水道関連企業が記事広告(「下水道でつなぐ未来」)を掲載するにあたり制作の協力を行った。
4. 雑誌「pen+」の下水道特集号に対する製作協力
昨年度に引き続き雑誌「pen+」(平成27年3月発行)下水道特集号「大いなる可能性を秘めた 下水道のミライ」を発行するに際し、制作協力を行った。
5. 会員による積極的な情報発信
下水道界内外に向け、GKP会員による「水道公論」等への記事掲載など積極的な情報発信を行った。

II. 場の創出

1. GJリンク活動の実施
 - (1) 第2回 下水道女性職員によるワークショップ
期 日：平成26年5月16日(金)14:30~17:30
場 所：日本下水道協会会議室
概 要：国や自治体、民間企業から約70人が出席し、石巻環境サービス(当時)の森田和社長と月島機械の荒井健・水環境事業本部事業統括部事業管理グループ副参事による講演と、参加者によるディスカッションが行われた。参加者は積極的にディスカッションに参加し、働き方や将来ビジョンについて意見交換した。
また、今後のGJリンクの活動において、事務局による企画に加え、メンバーによる自由な企画提案・実行を積極的に取り入れていくことにより、繋がり場をつくるにとどまらず場をつくる過程そのものも自分たちのスキルアップに役立てるべく活動を展開すること、「女性ならでは」のテーマに限定しないこと、を提案した。
 - (2) 「GJリンク通信」配信開始
・GJリンク活動に賛同する方に、「GJリンクメーリングリスト」にご参加いただき、「GJリンク通信」として活動予定の告知や

実施報告の配信を行った。26年度は5回配信した。

(3) G J リンクワークショップ in 下水道展' 14 大阪

期 日：平成26年7月24日（木）14:00～16:40

場 所：下水道展' 14 大阪（インテックス大阪5号館Bゾーン）

概 要：国や自治体、民間企業から約60名が参加し、大阪ガス株式会社近畿圏部顧問の正木啓子氏による講演と、参加者によるグループディスカッションが行われた。後半のディスカッションでは事前アンケートに基づき設定されたテーマや「G J リンク活動で今後やってみたいこと」について意見交換した。

なお、このワークショップは、事務局以外の近畿ブロック内メンバーが発案から企画・実施までをメインで担当、実現した企画の第1号である。

(4) 下水道業界で働く女性たちの写真展

期 日：平成26年7月22日（火）～25日（金）

場 所：下水道展' 14 大阪 パブリックゾーン内

概 要：下水道業界で働く女性の働く姿の写真を募集し、応募いただいた写真をパネル展示した。笑顔で生き生きと働く女性の写真が好評だった。なお本プロジェクトの企画・実行は、(3)と同じメンバーである。

(5) 広報スキルアップ講座「カメラ講座」

期 日：平成26年11月7日（木）18:30～20:30

場 所：日本下水道協会会議室

概 要：プロのカメラマン白汚零氏を講師に招き「カメラ講座」を開催した。官・民合わせて18名が参加した。講座では、テキストを用いた基礎を学習し、個別指導も受けた。プロのカメラマンに直接アドバイスいただける貴重な機会となった。

なお本プロジェクトの企画・実行も事務局以外のメンバーによるものであると同時に、内容についても、「女性ならではの」ではないが自らの広報スキルアップのために取り組んでみたいという内容であった。

(6) Pen+「下水道のミライ」座談会実施

期 日：平成27年2月4日（水）

場 所：日本下水道協会会議室

概 要：Pen+「下水道のミライ」の「下水道女子」特集のための企画として、GJ リンクメンバー4人による座談会を実施した。座談会では、これまでのGJ リンク活動についてそれぞれから紹介し、自由に

意見交換した。なお Pen+「下水道のミライ」は平成27年3月24日発売された。

2. キッチン・バス工業会との連携企画

- (1) 第2回GKP・KB広報連携ワーキンググループ会議
期 日：平成26年4月15日（月）10:00～11:30
場 所：キッチン・バス工業会会議室
出席者：キッチン・バス工業会3名、GKP2名
概 要：下水道展'14大阪における協働（展示）の具体的な検討ならびにキッチンショールームの見学会について話し合った。
- (2) 第3回GKP・KB広報連携ワーキンググループ会議
期 日：平成26年5月9日（月）10:00～11:30
場 所：キッチン・バス工業会会議室
出席者：キッチン・バス工業会7名、GKP2名、日経PR1名
概 要：下水道展'14大阪での展示パネルおよび排水トラップの模型の製作、体感型の展示方法などについて話し合った。
- (3) 第4回GKP・KB広報連携ワーキンググループ会議
期 日：平成26年10月8日（水）9:30～10:30
場 所：キッチン・バス工業会会議室
出席者：キッチン・バス工業会7名、GKP4名
概 要：連携をさらに強化するために「何をもってWin・Winとするか」などを話し合った。
- (4) 下水道展'14大阪における協働展示
期 日：平成26年7月22日（火）～25日（金）
場 所：インテックス大阪
概 要：下水道展'14大阪のスイスイ下水道研究所において、「台所の進化とそれを支えた下水道の整備」を協働でPRした。
また、排水トラップの構造とその効果を体感してもらう展示を行い、水の流し方に気を配ってもらうように訴えた。
そのほか、キッチン・バス工業会が行っている「川柳大会」の入選作品を展示するなど、楽しみながら学習ができるよう工夫した。
- (5) 交流見学会
期 日：平成26年8月29日（金）
場 所：新宿ショールーム（東京ガス、クリナップ）
参加者：20名

概要：キッチン・バスの排水まわりを中心に最新技術を見学したほか、ショールームの戦略やエネルギー循環への取り組みなどを学んだ。また見学後、台所から始まる資源・エネルギーの循環やビストロ下水道の展開などについて話し合った。

3. 下水道を未来につなげる会の設立（对学生向け活動の強化）

下水道界の「リクルート」力強化を図るため、下水道の魅力を学生に発信するなど、未来の下水道パーソン発掘のための取り組みを行うこととし、民間企業の職員等を中心とした横断的なチーム「下水道を未来につなげる会」を平成26年2月25日に設立した。

平成26年度は7月の下水道展でのワンデイ・インターンシップ（学生19名参加）、11月の東京都市大学でのワークショップ（学生50名参加）等の活動を行い下水道業界の説明、魅力を学生に発信した。

(1) 東京電機大学 シンポジウム

期 日：平成26年7月5日（土）14:00～17:00

場 所：東京電機大学

概要：下水道の仕組み、水ビジネス業界の説明を約100名の学生の前で行った。

(2) 下水道展 ワンデイ・インターンシップ

期 日：平成26年7月25日（金）10:00～16:00

場 所：インデックス大阪

概要：公募により参加した19名の大学生をグループに分け、新下水道ビジョンの骨子である「RINGS」の中から一つのテーマを選んでもらい、下水道展に参加された企業へのヒアリング及び未来会メンバーのアドバイスをもとにテーマに沿った技術を整理し、5分間のプレゼン及び未来会からのフィードバックを行った。

(3) Japan-YWP お仕事セミナー

期 日：平成26年8月2日（金）14:00～17:00

場 所：東京大学 工学部14号館

概要：東京大学等の学生17名を対象に下水道界の仕事についてプレゼンを行った。

(4) 東京電機大学 水処理施設見学+ワークショップ+仕事説明会

期 日：平成26年11月29日（土）9:30～17:30

場 所：東京電機大学、三河島水再生センター

概要：東京電機大学等の学生約50名を対象に水ビジネスを体感し

てもらったため、午前に東京都の三河島水再生センターの見学を行い、午後に各企業の技術説明、下水道業界の説明および「下水道の魅力」についてグループディスカッション、発表を行った。

(5) 東京都市大学 水ビジネス業界説明会

期 日：平成26年12月15日（月）16:00～18:00

場 所：東京都市大学

概 要：東京都市大学の学生約150名を対象に水ビジネス業界の説明を行った。

(6) 茨城大学 水ビジネス業界説明会

期 日：平成27年1月31日（土）13:00～15:00

場 所：茨城大学日立キャンパス

概 要：茨城大学等の学生約30名を対象に水ビジネス業界の説明、未
来会メンバーとの意見交換会を行った。

4. わいがやトークの開催

(1) 第13回

期 日：平成26年10月7日（火）

テーマ：京都市における若手職員有志による広報活動

講 師：京都市上下水道局 牛尾康二氏 天辰公彦氏

参加者：57名

(2) 第14回

期 日：平成26年11月6日（木）

テーマ：第1部 ライバルは自動車？ ショールームの戦略教えます！

第2部 花王の洗剤開発 その歴史と今、未来

講 師：クリナップ(株)新宿ショールーム所長 小林正樹氏

花王(株)生活者コミュニケーションセンター技術・渉外部長 深澤純一氏

参加者：35名

(3) 第15回

期 日：平成27年3月24日（火）

テーマ：都市と水を巡って

講 師：元名古屋市副市長、元名古屋市上下水道局長 山田雅夫氏

参加者：64名

Ⅲ. 特別企画の実施

1. 下水道展'14 大阪スuisui下水道研究所の企画

期 日：平成26年7月22日（火）～7月25日（金）10:00～17:00（最終日は16時まで）

場 所：インテックス大阪 1号館

概 要：下水道展'14 大阪のパブリックゾーンの展示について、日本下水道協会の依頼を受けてG K Pが企画を行った。パブリックゾーンの名称は昨年と同じ「スuisui下水道研究所」とし、展示の基本コンセプトを子どもたちが楽しく、わかりやすく下水道の仕組みを学ぶこととし、「夏休み自由研究」の題材として利用できる内容とした。更に今回は、若手漫才コンビのステージやデザインマンホール作品コンテストなど、開催地「大阪」の特色を出す企画を実施した。

ステージをゾーニングの中心に配置し、パネルを中心とした下水道に関する説明ゾーン。ここでは、微生物観察コーナーやつまらん管、排水トラップの模型などの展示をおこなった。来場者には、「下水道スタディブック」を配布し、展示品を見ながらこの教材を完成させると、夏休みの自由研究ができるといった企画もあり、下水道を身近に感じてもらうことができた。

また、ステージでは、全国下水道マスコット総選挙、下水道ワークウェアコレクション&コンテスト、G K P広報大賞表彰式等のイベントのほか、若手漫才コンビのステージが行われ、大いに盛り上がった。

スuisui下水道研究所への来場者は8,354人で、東京開催と比較すると減少した。しかし、市民参加型企画として行ったデザインマンホール募集企画では、大阪市内の小中学校からの応募が1,796件を集めることができ、下水道のPRに一役かった。

なお、今回、昨年以上に多くのG K P会員に説明ボランティアのご協力をいただいた。

下水道展'15 東京のパブリックゾーン企画についても、引き続き日本下水道協会からG K Pに企画検討の依頼があり、検討を行った。

	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	合計
一般・学生 来場者数 (人)	799 (1,568)	1,509 (2,724)	1,517 (1,477)	1,560 (2,258)	5,385 (8,027)
小学生以下 来場者数 (人)	283 (463)	631 (585)	1,056 (586)	999 (490)	2,969 (2,124)
			※()内は下水道展'13東京の来場者数		

2. エコプロダクツ 2014 の企画

期 日：平成 26 年 12 月 11 日（木）～13 日（土）10:00～18:00（最終日は 17 時まで）

場 所：東京ビッグサイト 東 3 ホール 3-003（6 小間）

概 要：日本下水道協会と 21 世紀の下水道を考える会協議会の依頼を受け、G K P が展示の企画検討を行った。展示ブースの名称を昨年同様「こども下水道場」とし、展示の基本コンセプトを楽しくて、タメになる、徹底的に子ども目線の内容とした。テーマを「下水道の 4 つのスゴイ術を学ぶのじゃ！」とし、「汚水集水の術」「水質浄化の術」「浸水防止の術」「下水資源化の術」の 4 つの下水道の役割をわかりやすく紹介した。また、ブース内では、顕微鏡で微生物観察や埼玉県下水道公社からお借りしたツマラン管による実演、更には下水管の模型を配置し、体験型学習を多くして、多くの子どもたちに楽しく下水道のしくみを学んでもらった。今回、多くの G K P 会員に説明ボランティアのご協力をいただいた。ブースへの来場者は約 6,000 名であった。

12月12日(木)	12月13日(金)	12月14日(土)	合計
1,880人 (1,950)	2,001人 (2,010)	2,030人 (2,180)	5,911人 (6,140)
※()は昨年度の来場者数			

3. マンホールサミット 2015 の開催

期 日：平成 27 年 3 月 7 日（土）13:00～17:15

場 所：メタウォーター(株)会議室

概 要：昨年に引き続き、マンホール好きの方々や下水道関係者が一堂に会し、マンホール蓋の魅力や歴史、技術等について語っていただくイベントを開催した。第一部は「マンホール女子が語ります！」

として、池上和子氏、小金井美和子氏ら女性4名を含む9名の方に講演行っていただいた。第二部座談トークはG K Pの栗原副委員長の進行のもと、「マンホール蓋はどこまで進化する？」をテーマに語っていただいた。サミット終了後は懇談会を開催した。また、展示会とマンホールに因んだグッズ販売も行った。マンホールサミットの開催については、今年も下水道関係者以外の多くの市民からの参加申し込みがあった。参加者は約300名であった。

4. 「ミス日本水の天使」の活用

G K Pの定時総会、下水道展'14大阪での各種イベント、エコプロダクツ2014及びマンホールサミットにおいて、「ミス日本水の天使」を活用した。

5. 「トイレ？行っとイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい」への協力

日本科学未来館の主催で「トイレ？行っとイレ！～ボクらのうんちと地球のみらい」が7月～10月に開催された。これはトイレを取り巻く諸問題について、エンターテイメント性を持たせて伝えるイベントで、日本科学未来館からG K Pに出展協力の要請があった。これを受けて、8月9日（土）に「夏休み宿題イベント」を開催することとした。下記6. で記載したワークショップの他、東京都下水道局の協力による「スマホ顕微鏡をつかった微生物観察会」やパネル、マンホール蓋等の展示を行った。

6. ウンディー探検隊の活動

国土交通省と地方公共団体職員自ら「ウンディー探検隊」に扮し、子供たちと一緒に楽しく下水道や水・資源の循環について学習を行うワークショップを新たに実施。8月9日に日本科学未来館、9月30日に浜松市の小学校で開催し、それぞれ137名（親子で）、53名が参加した。また、全国どこでも実施できるよう、そのまま使えるシナリオや教材を「うんち大研究！下水道ワークショップ運営マニュアル」としてとりまとめ、国土交通省ホームページに掲載。

7. G K P特別フォーラム「これからの日本を支える水インフラを考える」

平成26年12月16日（火）メタウォーター（株）会議室で慶応大学総合政策学部教授竹中平蔵氏をお招きし「日本経済の潮流」についてご講演いただいた。

8. はとバスツアー

GKPと東京都下水道局が企画した「大人の社会科見学」が、はとバスで「うきうき！！TOKYOアドベンチャー」と題し実現した。期間は3月21日～5月6日で、工程の中に有明水再生センターが組み込まれたコースとなった。

IV. 基礎構築

1. ホームページの管理運営

ホームページは設立総会以前より立ち上げ、活動方針、イベント情報、活動結果報告、情報共有等のサイトを設け、情報提供を行っている。平成26年度のアクセス数（ヒット件数）は4,829,757件である。（平成25年度のヒット件数2,897,921件）

2. クラウドシステム「WBC」の構築と管理・運営

団体会員であるメタウォーター(株)のご協力により、GKP会員・運営委員・役員間の情報共有等を目的に、クラウドシステム「WBC（ウォーター・ビジネス・クラウド）」を活用することとし、現在、構築中である。